

LEXUS TEAM au TOM'S

2018 スーパーGT 第4戦
 チャン インターナショナル サーキット
 2018年 6月30日(土)

予選 来場者: 9,417人 天候: 曇り時々小雨

一ヶ月以上のインターバルを開けて2018 スーパーGT シリーズ第4戦がタイ国プリーラムのチャンインターナショナル サーキットで開幕。シリーズ唯一の海外戦であるこのイベントは、昨年の10月開催から6月開催へと変更された。現地は雨期であり、毎日、必ず激しいスコールに見舞われ、予選セッション開始45分前にも雨が降り、コースはウエット。雨は止み、15分遅れで予選 Q1 が行われた。コースコンディションが変化中、au TOM'S の36号車は、Q1 で10番手。Q2 進出は叶わなかった。



- 午前中にドライ コンディションで行われたフリー走行で3番手タイムをマーク。好調な滑り出しを見せた。
- Q1 を担当した中嶋一貴は、レインタイヤを装着してコースイン。
- 路面が完全なウエット状況では速さを示していたが、コンディションは、刻々と変化。ハーフウエットとなり、スリックタイヤに交換するというチョイスもあったが、レインタイヤでアタックを続けることを決めて、周回を重ねた。
- セッションの終盤まで Q1 突破圏内にいたが、予選終了間際に、スリックタイヤ装着車がタイムアップして圏外へ落ちてしまった。
- 結果として10番手グリッドから決勝をスタートすることとなった。関口雄飛は、ドライブすること無く予選を終えた。

DRIVER	Car No.	Qualifying 1	Qualifying 2
中嶋一貴	36	P10	1:30.653
関口 雄飛			

天候	曇り時々小雨/ウエット→ドライ	
気温/路面温度	気温: 29-28度C	路面温度: 35-34度C

中嶋 一貴 (36号車ドライバー)



「今回、走り出しからマシンのバランスがとても良く、ドライでもウエットでも速かったです。Q2 に進出できなかったのは、雨のタイミングが悪かったから。それだけです。スリックへ変えるというチョイスも確かにありました。しかし、同じトムの1号車がタイヤを替えても直ぐにレインに戻ったのが分かったのでレインのまま頑張ってみました。決勝のコンディションがどうなるか分かりませんが、いずれにしても追い上げて、どこまで上げられるかですね」

関口 雄飛 (36号車ドライバー)



「ドライ コンディションでは、かなり良い感触でした。フリー走行では、かなり攻めた走りでチェックすることもできているので、とても良い感じです。決勝は、ポジションを挽回できると思うので、頑張ります」

東條 力 (36号車エンジニア)



「雨に翻弄された予選 Q1 でした。ドライバーもスタッフもミスなく終えたのに Q2 に進出できなかったのは本当に残念。今回、選んだレインとスリックの両タイヤが少しずつコンディションにマッチしていなかった。路面が良くなる状況において、レインは柔らか過ぎ、スリックは固過ぎて温まりが悪かった。ワンセットのレインタイヤで一貴に頑張ってもらいましたが、新しいレインタイヤに替えて、再アタックしてもらっても良かったかも。決勝は、どうにかして表彰台を獲得したいですね。天候に関しては、われわれサイドではどうすることもできないし、状況は誰にも一緒なので、その時々での対処をします」

伊藤 大輔 (36号車チーム監督)



「残念、本当に残念。今回、マシンの状態がすごく良いので、悔しさはひとしおですね。一貴が頑張ってくれたのですが、最後の最後で Q1 を突破できませんでした。雄飛もトムスで4戦目ですから、かなり乗っています。チーム内の雰囲気も今シーズンで最高に良いので、10番手グリッドからでも表彰台、いや優勝を狙って決勝をスタートします。見ていてください」

舘 信秀 (総監督)



「タイの雨は、いつ降るか本当にわからない。天候は我々にはどうすることもできない。マシンの調子は良いというから、明日の決勝に期待しています。トムスらしい展開で、皆さん楽しんでいただければと思っています」

2018 スーパーGT 第4戦
 チャン インターナショナル サーキット
 2018年7月1日(日)

決勝

来場者: 20,219人

天候:曇り時々晴れ

雨に翻弄された予選結果から一転、ドライ コンディションとなった決勝において、LEXUS TEAM au TOM'S の36号車は、2018 スーパーGT シリーズ第4戦、タイ国、プリーラムのチャン インターナショナル サーキットで10番手グリッドから素晴らしいレース展開で順位をアップ。終盤戦でトップの車両をほぼ捕らえたが、最終ラップに突然スローダウン。コース上にストップしてしまい、1周遅れの10位に終わった。



- 中嶋一貴がスタートドライバーを務め、中段グループの混戦の中、着実に順位をアップ。
- 5位グループを走行していた23周目に、36号車の直前で2台が接触。アクシデントに巻き込まれることなくすり抜けて、単独5位まで順位アップ。
- 28周して中嶋はピットイン。関口雄飛にドライバー交代した。
- 全車がピットインを終えた段階での順位は4位。そこから関口の猛追が始まった。
- 前を行く3台の同じLEXUS LC500よりも約1秒速いラップタイムで走行。66周レースの49周目には3位、56周目には2位へと躍進。
- 1秒以内の差でトップの車両を攻め続けていたが、最終ラップに入ったときにスローダウン。燃料を使い果たしてしまいストップしてしまった。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap	
中嶋一貴	36	P10	1:25.596
関口 雄飛			1:24.977
天候		曇りときどき晴れ/ドライ	
気温/路面温度		気温: 32-34度C	路面温度: 47-42度C



中嶋 一貴 (36号車ドライバー)

「スタート直後から、常に接戦、団子状態での走行だったので、とても疲れました。混戦の中でも、マシンのバランスはとても良かったので順位をアップできました。接触で前の2台が一気に後退するというラッキーな面もありました。雄飛の走りは素晴らしかった。ゴールできなかったのは、とても残念です」

関口 雄飛 (36号車ドライバー)

「最終ラップに入る直前、最終コーナーに入ったらエンジンがバラついてしまいました。何とかフィニッシュしたかったのですが、ダメでした。勝てると思ったので残念ですね。前を走っていた小林可夢偉選手もうまかったですね。GT300クラスのマシンが絡んでくれたら、抜けたのかも知れませんが、単独でパスするのはかなり難しかったです。マシンは最高に速かったです」

東條 力 (36号車エンジニア)

「ピットストップタイムを短縮するために燃料給油量を少なくするような作戦では無かったです。そこを攻めなくても、マシンの仕上がりが良かったので、走りでも十分に順位を挽回できる自信がありました。しかし、雄飛の走りが予想をはるかに超えた速さでした。予想を超えたことで燃費が低下してしまいました。しかし、本当に素晴らしかったです。表彰台に立てなかったのは残念ですが、この勢いで次戦の富士に臨みます」

伊藤 大輔 (36号車チーム監督)

「ゴールラインを切らせてあげられなかったのは、申し訳なかったです。しかし、一貴も雄飛も素晴らしい仕事してくれましたね。予選でのアンラッキーを払拭してくれた決勝の走行だった。結果を残すことはできなかったですけど、パフォーマンスの高さは十分にご覧いただけたと思います。それにしても、終盤の雄飛の速さは言葉に表すことができないほど素晴らしいものだった。この調子で富士、500マイル=800kmに臨みます」

館 信秀 (総監督)

「ファイナルラップに止まってしまってガッカリしたけれど、そこに至るまでは、本当にワクワクするレースを展開してくれた。正直、勝てると思った。しかし、ゴールラインまでたどり着かなくては勝てない」

※次戦の第5戦は、8月4-5日(日)に静岡県富士スピードウェイにおいて、シリーズ最長の500マイル(800km)レースで開催されます。